2021 夏号

園芸文化
みんなの広場

第 28 号　2021 年 6 月 5 日発行

公益社団法人 園芸文化協会
〒113-0033
東京都文京区本郷 1-20-7 安藤ビル 202 号室
TEL 03（5803）6340　　FAX 03（5803）6341
E-mail：enbun@soleil.ocn.ne.jp
http://www.engeibunka.or.jp

令和3年度 園芸文化賞　受賞者決定

「令和３年度園芸文化賞」の受賞者が、岩渕公一さんと塚本こなみさんのおふたりに決まりました。なお、例年６月中旬に行っている表彰式と記念講演については、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、時期や方法等を現在検討中です。決まり次第皆様にご案内申し上げます。

● 岩渕 公一（いわふち・こういち）

国際雪割草協会会長　雪割草育種家

雪割草育種の第一人者として、日本の固有種である雪割草（オオミスミソウ）の多種多様な品種を作出したほか、講座やメディアを通じた普及活動を実践し、園芸種としての地位を確立させ、園芸文化の発展に貢献されました。また、国内で雪割草がブームになったとき、新潟県内の自生地の多くが乱獲の被害にあいましたが、それを危惧した同氏は自身が育種した品種の人工交配手法を公開したことで、自生地の保護・保全を目指しました。こうした私利私欲と無関係な熱意と努力は本賞の表彰にふさわしい功績です。

● 塚本 こなみ（つかもと・こなみ）

元あしかがフラワーパーク園長
現公益財団法人浜松市花みどり振興財団・はままつフラワーパーク理事長

日本初の女性樹木医となり、あしかがフラワーパークへのフジの巨木移植を成功されるなど、植物を重要な財産として保存することへの情熱と独特の感性を活かした植物園運営を実践することにより、植物の尊さを広く伝え園芸文化の発展に貢献されました。植物園やフラワーパークにおいて、植物自体が集客を担う重要な観光資源であり、苦境からの脱却につながることを同氏の活躍により再認識させられました。また様々なメディアを通し、家庭でのフジの栽培方法なども紹介しており、日本が誇る名花フジから、そして同氏の活躍からますます目が離せません。

園芸文化協会が手伝う

この春の花壇から

昨年４月は緊急事態宣言で閉園となっていた新宿御苑ですが、今年の４月は人数制限の予約制で開園していましたので、多くの方にイギリス伝統のチューリップとワスレナグサとのコンビネーションを楽しんでいただくことができました。

日比谷公園第一花壇には、チューリップを富山県花卉球根農業協同組合から提供していただき、ニューフェイスの‘夢見るパンジー’(エム･アンド･ビー･フローラ)と共に花壇を彩り、人気となりました。

新宿御苑・三角花壇

日比谷公園・第一花壇